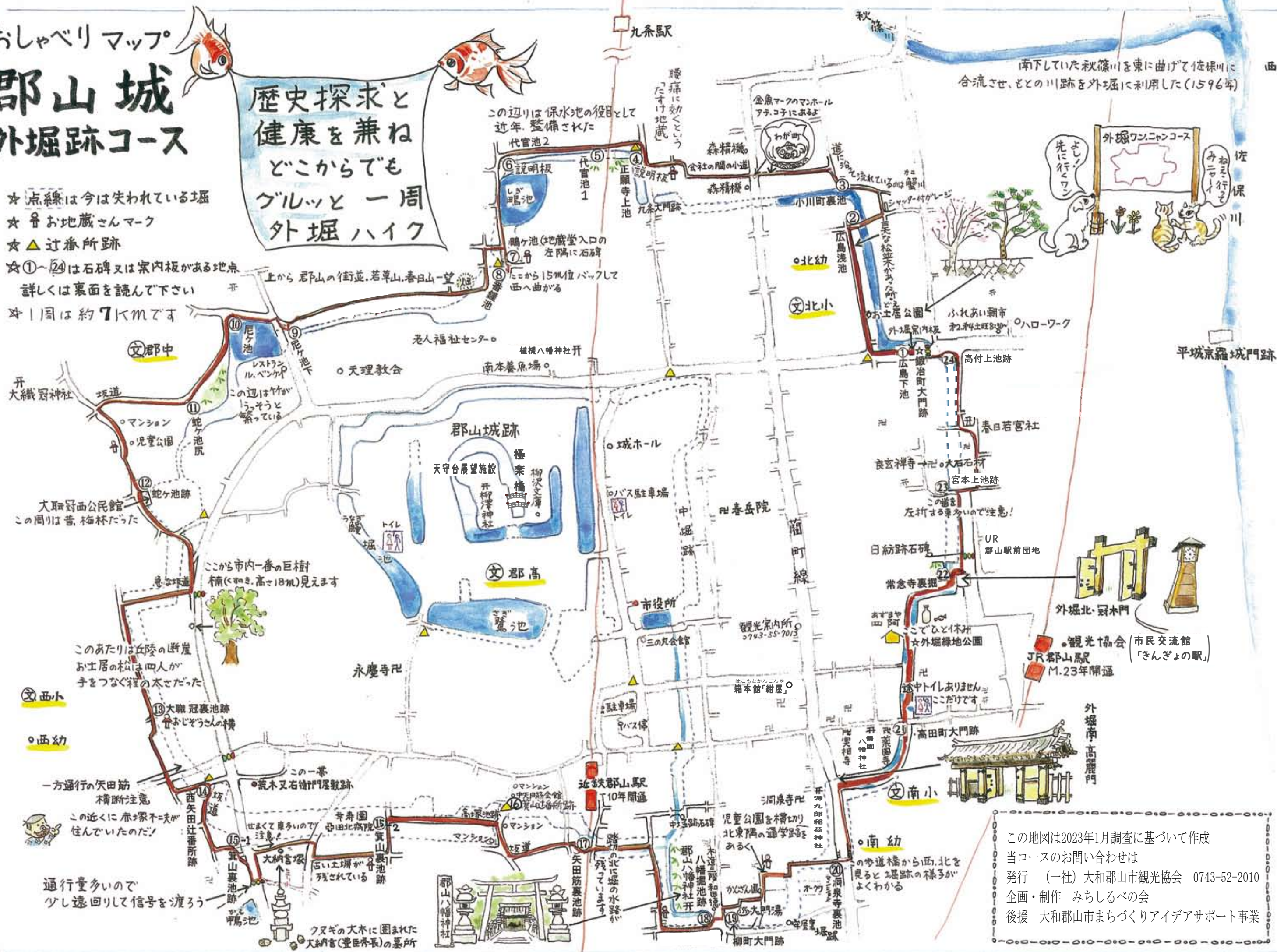


おしゃべりマップ 郡山城 外堀跡コース

- ★点線は今は失われている堀
- ★お地蔵さんマーク
- ★△辻番所跡
- ★①～⑭は石碑又は案内板がある地点
- ★詳しくは裏面を読んで下さい
- ★1周は約7kmです

歴史探求と
健康を兼ね
どこからでも
グルッと一周
外堀ハイク



この地図は2023年1月調査に基づいて作成
当コースのお問い合わせは
発行 (一社) 大和郡山市観光協会 0743-52-2010
企画・制作 みちしるべの会
後援 大和郡山市まちづくりアイデアサポート事業

郡山城外堀跡コース

天正 13 年（1585）、豊臣秀吉の弟秀長が本格的な城として郡山城を完成させました。秀長の死後、文禄 4 年（1595）、増田長盛が 20 万石で入城し、秋篠川の流れを奈良口で東へ付け替えし元の川跡を外堀とし、西は丘陵の断崖に沿って点在する溜池を利用してつなぎ、北は谷や窪地に沿う堀を巡らしました。堀の内側には土居を築いて松や竹を植え、城下全体を取り巻く惣堀の普請を行い、全長 50 町 13 間（約 5.5km）の外堀を完成させました。

現在、外堀跡を利用して大雨の時一時的に雨水を溜める特定保水地として整備したり、堀跡の一部を外堀緑地公園としていますが、水路化したり、宅地等に転用されたり、溜池として利用されている所等、昔の面影がなくなっている場所がほとんどです。

歴史的遺産である外堀跡を後世まで伝えるため、「みちしるべの会」では外堀跡に石碑を建てました。

- ① **広島下池（下池、上池）** 堀の幅は、6 間半（11.7m）～9 間（16.2m）に及ぶ長い L 型の堀。秋篠川の付け替え工事により、元の川筋を堀として活用したもので、古くは、平城京の九条大路跡に当る。
☆**お土居公園（おどえこうえん）** 地元では土居を「どえ」と呼ぶことがあり、この公園の名に付けられている。このあたりの土居には大きな松の木がそびえていて、「おどえの松」と呼ばれ遠くからの目印となっていた。
- ② **広島浅池** 広島下池・上池と続く堀で幅は 7 間（12.6m）。
☆**広島町** 元和 5 年（1619）に改易になった福島正則の浪人広島衆を、時の城主松平忠明が召抱えて住まわせたので広島町の名が付けられた。
- ③ **小川町裏池** 堀の幅は 9 間（16.2m）～10 間（18m）。豊臣秀長の家老、小川下野守（3 万 5 千石）の屋敷があったので小川町の名が今に残る。
- ④ **正願寺上池** 堀の幅は 7 間（12.6m）で、西側に土居の竹やぶが残っている。平成 17 年（2005）度に洪水対策の一環として特定保水池整備事業が行われた。この事業は、歴史的文化遗产である郡山城の外堀跡を利用し、市民の憩いと潤いの場とするとともに、大雨の時には一時的に貯水をして、下流の市民の安全確保を目的として整備したもの。最大約 1,800 m³の水を貯めることができる。
- ⑤ **代官池（1）** 堀の幅は 8.5 間（15.3m）で、傾斜地なので中仕切りがある。
☆**代官町** 時の城主本多政勝が武家屋敷を増設し、内 13 軒に代官を住まわせたのでこの町名が付けられた。
- ⑥ **代官池（2）** 平成 14 年（2002）度に蟹川流域の浸水対策の一環として特定保水池整備事業が行われ、最大貯水量約 4,400 m³、水深約 4.2m となる。
- ⑦ **鳴ヶ池（しぎがいけ）** 溜池を堀として利用したもので、南半分が埋め立てられて、集会所や地藏堂が建てられている。地元では「しんがいけ」と呼んでいる。
- ⑧ **番鐘池** 溜池を堀として利用したが、現在は住宅地となっている。
- ⑨ **尼ヶ池下** 番鐘池と尼ヶ池を結ぶ長大な堀で、西側の県道から見ると正面に春日山、左に若草山、右に高円山と続き、奈良の山々を遠望できる。
- ⑩ **尼ヶ池** 「大和大納言秀長公が大織冠の社を遷し給う時、地形の用として土を取りしあとなり」と「郡山町旧記」にある。尼の悲しい伝説が伝えられている。

- ⑪ **蛇ヶ池尻** 尼ヶ池と蛇ヶ池をつなぐ細長い堀。幅は 5 間（9m）で、現在は竹などが繁っている。
- ⑫ **蛇ヶ池跡** 貞享年間（1684～87）の「郡山城絵図」によると、東西 43 間、南北 30 間、周囲 2 町 26 間であった。昭和 36～40 年（1961～65）に埋め立てられ、住宅地となった。池の底には、大蛇が出るのを防いだという大石があると言われており、蛇ヶ池伝説の元になっている。
- ⑬ **大織冠裏池跡** 幅 7 間（12.6m）～13 間（23.4m）の長い堀。ここは丘陵の断崖を利用した堀で、そこには大きな松の木が植えられていた。
- ⑭ **西矢田辻番所跡** 大織冠裏池の南端と箕山裏池の北端にはさまれた道路わきにあった。
☆**辻番所** 町境の道路に木戸を設け番所を置いて警戒を厳重にしていた。城の周辺 10 ケ所に辻番所が置かれていた。
☆**荒木又右衛門屋敷跡** 西矢田辻番所跡の東。郡山城主松平忠明に剣術師範として 250 石で召し抱えられた剣豪で、箕山（現城南町）に住んだ。寛永 11 年（1634）、義弟の渡辺数馬の仇討ちに助力し本懐をとげる。屋敷跡と伝わる場所に碑が建っている。
- ⑮ **箕山裏池跡(1)** 殆ど住宅や駐車場になっている。
箕山裏池跡(2) 現在は病院の敷地になっている。少し東に高塚池があった。
- ⑯ **箕山辻番所跡** 高塚池と矢田筋裏池との接する道路の北側にあった。
- ⑰ **矢田筋裏池跡** 堀の幅は 7 間半（13.5m）～8 間（14.4m）で、昭和 20 年（1945）ごろに埋め立てられた。
- ⑱ **八幡堀池跡** 郡山八幡神社の西側と南側を L 型に囲み、幅は 9 間（16.2m）で南側の東端は柳町大門に接していた。神社の裏山に外堀跡の土居が残存している。
- ⑲ **柳町大門跡** 南大和に通ずる高野街道への要所に当たるので、柳 4 丁目と 5 丁目の境に大門を設置して、外来者等に注意を払い、厳重な警戒体制を布いていた。門は、慶長年間（1596～1615）に、伏見城の惣門を移築したものと伝えられている。大門の勤番は町民の責務で、この大門は柳 1 丁目から 5 丁目までと、堺町、豆腐町、車町の町民が交代で勤番することになっていた。
- ⑳ **洞泉寺裏池跡** 堀の幅は 8 間（14.4m）で、現在はスーパーの駐車場となっている。東の道路端に「洞泉寺裏濠跡」の大きな石碑が立つ。
- ㉑ **高田町大門跡** 伊賀街道に通じる要所に当たり、大門を設けて厳重な警戒をした。
- ㉒ **常念寺裏堀跡** 堀の幅は 7 間（12.6m）で、現在は外堀緑地公園として整備された。
☆**外堀緑地公園** 長さ 580m、郡山城外堀の一部を城下町にマッチする形で、築地塀を巡らし、四阿（あずまや）、則（かわや）を設置して市民の安らぎの場として整備された。北門に冠木門（太い 2 本の柱の上に横木を渡した木戸様式）、南門に高麗門（外堀に設けられた 4 箇所の大門のうちの柳町大門の様式）を配す。
- ㉓ **宮本上池跡** 堀の幅は 8 間（14.4m）で、令和元年（2019）に埋め立てられた。良玄禅寺の裏手に当たる。
- ㉔ **高付上池跡** 堀の幅は 7 間（12.6m）で、令和 2 年（2020）に埋め立てられ、その時の発掘調査で土塁の下から江戸時代後期～末期に敷設された排水管が出土、埋め立てられる少し前まで使用されていた事がわかった。
☆**鍛冶町大門跡** 京街道・奈良街道に通じる要所であるので大門が置かれた。東面して建っていて、東西の道路は平城京九条大路の跡である。

※各項目の堀の幅は、正保元年（1644）に作成された「**正保年間和州郡山城絵図**」による。

（みちしるべの会）